

F★★★★

ホルムアルデヒド放散等級



ALES

DYNAMIC TOP

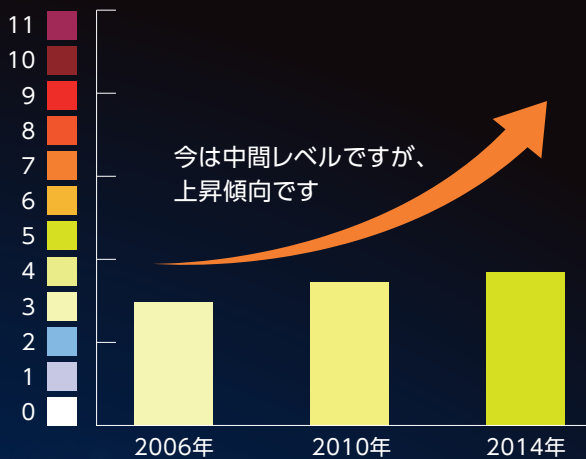
水性反応硬化形ハルスハイリッチシリコン樹脂塗料

アレスダイナミックTOP

外壁を長期に保護するために

風雨や熱や太陽光線など、地上では常に厳しい環境にさらされています。
紫外線は人の肌と同じく、建物の仕上材を攻撃し劣化を促進させ、
晴天の日だけでなく、曇りや雨の日でも降り注ぎます。
さらに、オゾン層破壊の影響で紫外線量は年々増え続けていることから、
人も建物も、健康を維持するには紫外線から護ることが最も重要です。

UVインデックス



今は中間レベルですが、
上昇傾向です

〔気象庁 日最大UVインデックス(推定値)年間推移データ〕より引用

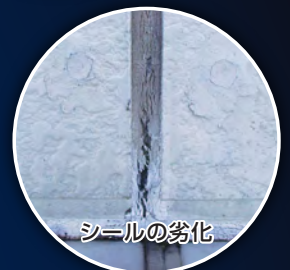
11+	極端に強い	日中の外出はできるだけ避け、必ず 長袖シャツ、日焼け止め、帽子の利用 を心がける。
8～10	非常に強い	
6～7	強い	日中はできるだけ日陰を利用し、で きるだけ長袖シャツ、日焼け止め、帽 子の利用を心がける。
3～5	中程度	
1～2	弱い	安心して外出できる。

UVインデックスとは 紫外線が人体に及ぼす影響の度合いを
わかりやすく示すため、紫外線の強さを示
した世界共通の指標です。

■ 紫外線による影響

人体への影響	建物の仕上材への影響
・皮膚がん ・シミ、ソバカス ・皮膚の炎症	・塗膜の破壊 〔つや引け、変色、ワレ ハガレ、磨耗・風化〕

塗膜の劣化を防ぐために 紫外線に強い塗料選びが大切



劣化の原因物質「ラジカル」に着目

「ラジカル」とは、塗料の主成分のひとつ「酸化チタン」に紫外線が当ることにより発生する物質で、塗膜を破壊し劣化を促進させます。関西ペイントテクノロジーを駆使し、塗膜劣化の原因物質である「ラジカル」の発生を抑える技術を開発しました。

動画でチェック

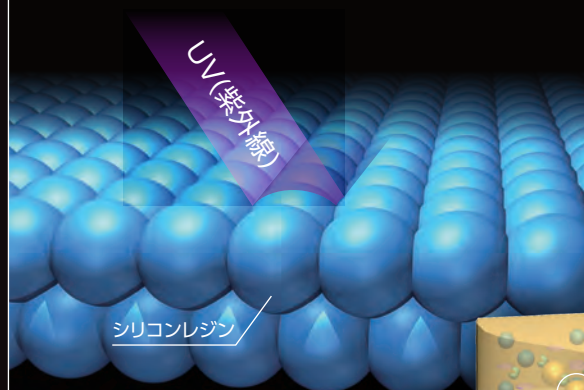


4つの技術で紫外線から外壁を護る

「ラジカル」の発生と活動を抑えることで、塗料の耐久性を飛躍的に向上させます。

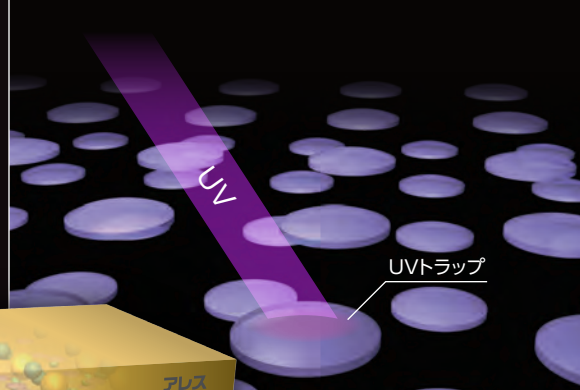
高性能シリコンレジン

超強力な結合エネルギーを持つ国産「高性能シリコンレジン」で紫外線劣化を阻止



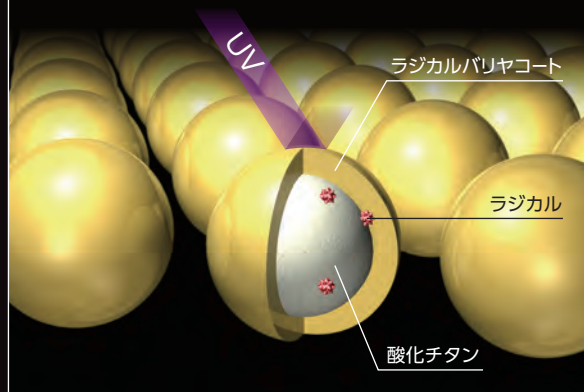
UVトラップ

「高性能シリコンレジン」をすり抜けた紫外線を「UVトラップ」で無害化



ラジカルバリアコート

酸化チタンへの紫外線到達を阻止しラジカル発生を抑制



HALSラジカルキャッチャー

極微量すり抜けた紫外線によって発生したラジカルは「HALSラジカルキャッチャー」で捕獲し全て無害化



高性能の上塗で外壁を長期に保護

アレスダイナミックTOPの特長



高耐候



完全水系工法



防カビ・防藻



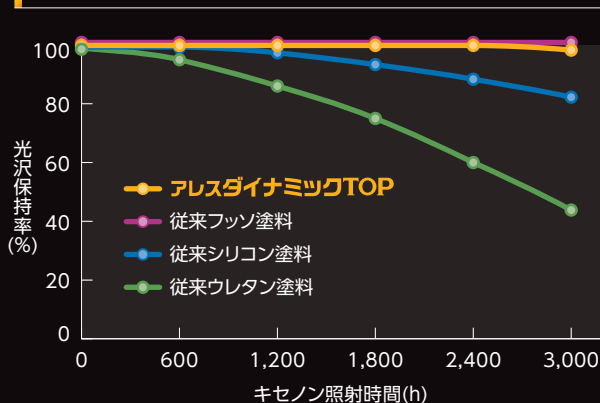
超低汚染



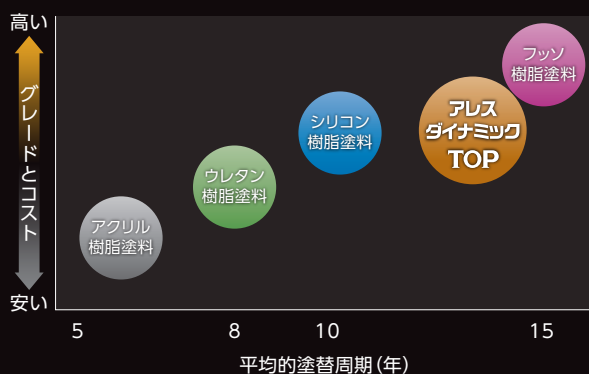
強力な付着性

- 🔥 最上位品フッソに迫る高耐候性
- 🔥 樹脂性能を最大限に引き出すラジカル制御技術を採用
- 🔥 超低汚染
- 🔥 カビ、藻が付着しにくい
- 🔥 臭気の少ない水性塗料
- 🔥 艶の選択が可能
[艶有り、7分つや、5分つや、3分つや、艶消し]
- 🔥 強力な付着力
[強化剤を配合することで、湿潤面や高湿度環境での施工が可能]

促進耐候性試験結果

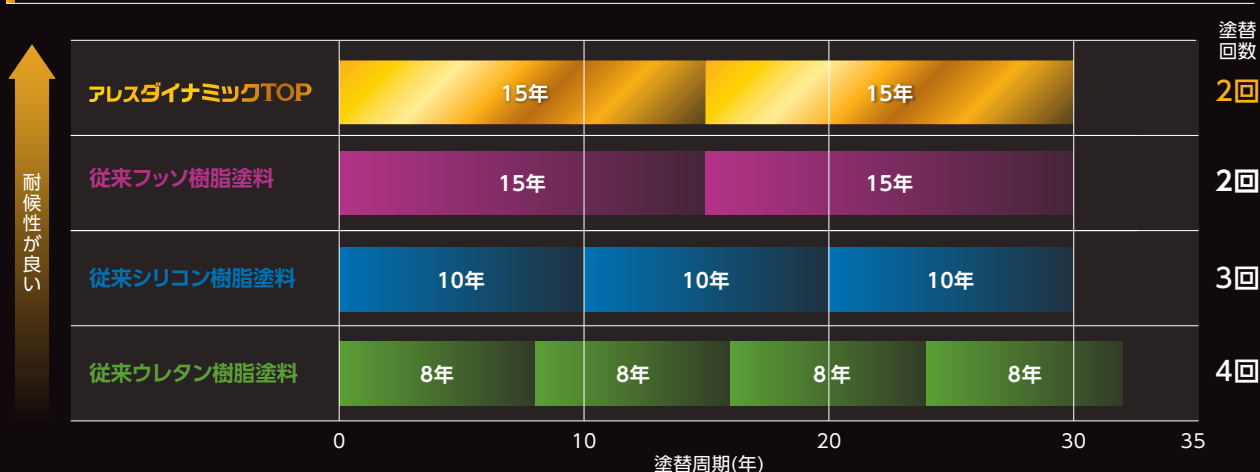


塗料の種類



耐久性の良い塗料を選ぶことで長期間の保護が可能になり
長い目で見るとトータルコスト低減につながります

塗り替えサイクルコスト



「ダイナミック強化剤」を組み合わせ 湿潤面や高湿度で塗装可能

独自の緻密・強靱塗膜形成技術により高い付着力を発揮します。

下・中塗材「アレスダイナミックフィラー」さらに「ダイナミック強化剤」と組み合わせることで、従来は塗装できなかった湿潤面への塗装も可能になります。

DYNAMIC

強力な付着力により
弱った面にも安心して
塗装できます。

※手工具で簡単に剥がれたり、下地
から浮いた旧塗膜に対しては、適
切なケレンと下地処理を行って
から塗装してください。



ALES
DYNAMIC
TOP

プラスα機能



DYNAMIC

梅雨時期への対応だ
けでなく高湿度になり
やすい場所（北面、水
回り付近、日陰）にも有
効です。

DYNAMIC

悪天候による工期遅延
が少なくなり、近隣へ
の心配もなくなります。



DYNAMIC

計画通り足場を撤去で
きるため、安全性や洗
濯など日常生活への影
響も少なくなります。

アレスダイナミックTOP 付着試験 (JIS 基準値 0.7N/mm²) JIS温冷繰り返し10回試験後

主材のみ

乾燥面

1.31N/mm²

JIS 基準値 0.7N/mm²

主材+強化剤

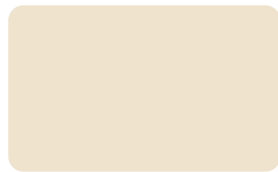
乾燥面

2.2N/mm²

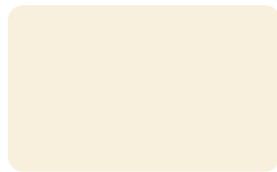
湿潤面

1.8N/mm²

JIS 基準値 0.7N/mm²



KP-111



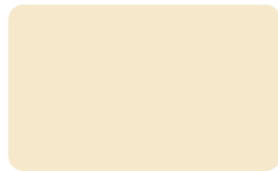
KP-110



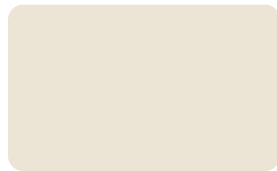
KP-112



KP-223



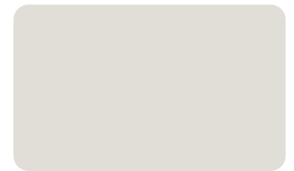
KP-310



KP-121



KP-133



KP-221



KP-120



KP-127



KP-131



KP-80



KP-337



KP-336



KP-141



KP-247



KP-330



KP-147



KP-350



KP-75



KP-347



KP-150



KP-352



KP-70



KP-356



KP-357



KP-368 ◎



KP-50



KP-367



KP-167



KP-376



KP-379 ◎



KP-170



KP-385 ◎



KP-185 ◎

※この見本は印刷のため、実際の色とは異なります。色合わせの目的には使用できません。

◎印は、濃彩色のため材料費が割高になります。

仕上材

アレスダイナミックTOP

主 材：15kg 4kg

・艶有り・7分つや・5分つや・3分つや

・艶消し(強化剤は使えません)

湿潤面用
ダイナミック強化剤
セット

強化剤:0.08kg×2

下 塗・中 塗

アレスダイナミックファイラー

主 材：16kg

湿潤面用
ダイナミック強化剤
セット

強化剤:0.08kg×1

■ アレスダイナミックTOP 標準塗装仕様(通常仕様) 適用下地 コンクリート・モルタル・窯業系サイディングボード・ALC・各種旧塗膜

工 程	塗料名・処置	荷 姿	塗装方法	標準所要量 (kg/m ² /回)	希釈率(重量%)	塗り重ね乾燥時間(23℃)
素地調整	劣化した旧塗膜をディスクサンダー・スクレーパー・皮スキ・ワイヤーブラシを用いて除去する。エフロ・レタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去する。モルタルの場合、浮き・クラックなどは適切な処置を行う。窯業系サイディングボードの場合、欠損、シーリング材の劣化部などは適切な処置を行う。					
下 塗	アレスダイナミックファイラー 上水	主材16kg	中毛ローラー 砂骨ローラー	0.30～0.50 0.80～1.50	5～10 1～5	8時間以上7日以内
上塗1回目	アレスダイナミック TOP 上水	主材15kg	ハケ・ローラー	0.12～0.14	3～5	2時間以上7日以内
上塗2回目	アレスダイナミック TOP 上水	主材15kg	ハケ・ローラー	0.12～0.14	3～5	—

※下塗には、アレスダイナミック防水ファイラー、アレスダイナミックブラサフⅡ、アレスダイナミックシーラーアクア、アレスダイナミックシーラーマイルド、アレス水性エポキシ、浸透形Mシーラー、エコカチオンシーラー、アレス弾性ホルダー防水形、アレスゴムタイルニユーラフなども使用可能です。

※艶消しは、希釈率0～10%としてください。

■ アレスダイナミックTOP 標準塗装仕様(湿潤面・高湿度環境仕様) 適用下地 コンクリート・モルタル・窯業系サイディングボード・ALC・各種旧塗膜

工 程	塗料名・処置	荷 姿	塗装方法	標準所要量 (kg/m ² /回)	希釈率(重量%)	塗り重ね乾燥時間(23℃)
素地調整	劣化した旧塗膜をディスクサンダー・スクレーパー・皮スキ・ワイヤーブラシを用いて除去する。エフロ・レタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去する。水滴はウエス、雑巾などで拭き取るか、エアブローまたは新品の中毛ローラーにて除去する。モルタルの場合、浮き・クラックなどは適切な処置を行う。窯業系サイディングボードの場合、欠損、シーリング材の劣化部などは適切な処置を行う。					
下 塗	アレスダイナミックファイラー 上水	主材16kg、強化剤0.08kg×1	中毛ローラー 砂骨ローラー	0.30～0.50 0.80～1.50	5～10 1～5	16時間以上7日以内
上塗1回目	アレスダイナミック TOP 上水	主材15kg、強化剤0.08kg×2	ハケ・ローラー	0.12～0.14	3～5	8時間以上7日以内
上塗2回目	アレスダイナミック TOP 上水	主材15kg	ハケ・ローラー	0.12～0.14	3～5	—

※湿潤面塗装時の希釈は水分の巻き込みを考慮し、1～3%程度少く調整してください。 ※乾燥時間は乾燥面に比べ2～3倍程度乾燥が遅くなります。

※上塗2回目は乾燥した状態で塗装ください。 ※艶消しに強化剤を使用すると、つやムラを生じますのでご使用出来ません。

施工上の注意事項

●塗装後、乾燥不十分な状態で降雨・結露などで負荷が掛った場合や、低温、高湿度、通風の悪い環境では、ふくれ、はく離、割れ、ひび、シミなどが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。

●雨あがり結露が発生するようない状態、場所での使用は避けてください。湿潤な塗料での塗装をおすすめいたします。

●可塑剤が多く含まれる部材(塩ビ樹脂、ゴムパッキン、ラミネート、合成皮革、プラスチック、シーリング材など)への塗装は避けてください。粘着や軟化が生じるおそれがあります。また、これら部材に直接塗装が接触しないようご注意ください。

●断熱されやすい素材(軽量モルタル、ALC、高断熱型窯業系サイディング、発泡スチレン使用建材など)を用いた「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシンや弾性スタッコ、アクリルトップ等の場合、そのまま塗装すると環境条件によっては水や湿度の影響で塗膜がふくれたり、はく離が生じることがありますので、旧塗膜は完全に除去してください。

●常見種(ベール、カンター、桶)、道具類(ベンドやジョイント、グルーミングなど)への塗装は避けてください。

●水性「バ」(合成樹脂「マル」)は耐水性が劣るため、外壁や浴室壁面等へ使用すると、早期に塗膜はく離が生じる可能性がありますので使用しないでください。

●曇り色仕上げの際、雑巾・ウエス等で強くすると、色落ちや変化が起こる場合がありますので、衣類などが触れる可能性のある部位への施工は避けてください。

●気温5℃以下(低温)の場合は、雨の日の施工は避けてください。

●屋外において降雨、降雪、強風の恐れがある場合は塗装を避けてください。

●塗装環境は環境(温度、湿度、換気回数等)や調湿によって変わります。

●所要量は、被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などにより増減することがあります。

●結露が発生する場所では、塗料中の微量の水溶性成分が表面に溶出し粘着物となって析出することがあります。粘着物は水拭きや水洗い除去してください。

●塗料が雨や結露の影響を受けた場合は、白化やつやけなどの異状が生じやすくなります。山間部や河川近くなどの夜露の早くおきる多湿地域では、より条件が厳しくなりますのでご注意ください。

●塗装仕様に記載の塗装期間は、屋外で気温23℃の条件を想定しています。低温時や屋内等で十分な換気ができない場合は、塗装期間が長くなることとなりますのでご注意ください。

●塗装仕様書に記載の数値は標準値のためです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件により多少の幅を生じることがあります。

●塗膜性能を十分に発揮させるために、所定の塗り回数と塗付量確保による施工を行ってください。

●適用可能な旧塗膜は下地との付着性に問題なく、活版であることと条件としています。

●活版用「地」付(強度約0.7N/mm以上)

●吸い込みの著しい下地では、浸透形Mシーラー、アレスダイナミックシーラーマイルドを推奨します。

●吸い込みの大きい下地や素材の場合は、塗付量が多くなるので塗装期間を長めにとってください。また、上塗までの塗装期間が規定より短い場合、むちみ、割れ、乾燥不良を起こすことがありますので注意してください。

●被塗物の形状、膜厚や色目、塗回数、希釈率の意などにより、実際のつやと若干異なる場合があります。また塗装後、面割やつやむらを生じやすい傾向があります。試し塗りの上、本施工に入ってください。

●本品を塗装の際は、中塗や上塗に塗り残しや透けがないようご注意ください。塗り残しや透けがある場合、紫外線の透過によりシーラー塗膜が紫外線劣化を起こし、層間でく離が生じるおそれがあります。

●無機系樹脂、光触媒処理、フッ素樹脂、シリコン樹脂など特別な樹脂で処理された窯業系サイディングボードに塗装する場合は、下塗材として「アレスダイナミックシーラーマイルド」をご使用ください。なお、事前に試し塗り付着性を確認してください。

●付着性に問題がある場合は、目荒らしを行ってください。

●新設材が押出成形セメント板やGRC板の場合は、下塗りとして「浸透形Mシーラー」または「アレスダイナミックシーラーマイルド」をご使用してください。

●シーリングに設備がなく、構造上大きな動きが予想されるシーリング打設部への塗装は、塗膜がひび割れる可能性がありますので避けてください。

●シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、伸縮割れ、粘着などの不具合が発生することがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、本製品に対して塗装適合性の高い「ノンブリードタイプのシーリング材」を用い、完全に硬化した後に行ってください。また、マルチタイルコンクリートプライマー-EPO、シーパ、水性エポキシ等を下塗りして、可塑剤移行による汚染、粘着の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、伸縮割れが起こることがあります。

●シーリング面へ塗膜が汚染はく離・吸収層を形成することがあるため、マスキングテープなどで養生を行い、塗装を避けてください。シーリング材を打ち替える場合は、後打つとして、可塑剤(油分)を含まないノンブリードシーリング材をご使用ください。

●つや調整剤ややみ消し品を塗上する際は、しっとり感部をつらないよう注意し、面を切って、通し塗りを行ってください。

●つや調整剤ややみ消し品は、膜厚、湿度、塗色、塗回数、希釈率などによりつやの発現性が変わります。特ににはローラー塗装時の塗膜厚さで膜厚を塗り、その部位のつやが高くなり、つやむらを生じやすい傾向があります。試験施工で仕上りを確認の上、本施工を行ってください。

●つや調整剤ややみ消し品は、高温などの乾燥が早い環境下ではつやむらが生じやすくなります。特に被塗面が直射日光で熱せられ高温になると塗膜の形成の凹凸が増え、さらには塗膜が不均一にならずくなるためつやむらが生じやすくなります。

●つや調整剤ややみ消し品は、使用中において塗料に含まれるやみ消し剤が沈降しやすい場合がありますので、適宜攪拌しながらご使用ください。

●補修塗り用として使用塗料の入れを必ずとおき、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装を行ってください。

●補修塗りの際は、塗料がやみ消し剤が等により、仕上がり塗膜がその塗生をすることがありますので、部分的に試し塗りした上で希釈量等を決定してください。

●ローラー塗装では同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なって見えることがあります。

●塗装方法により色相が変化する場合がありますので、一般部がローラー塗り場合はできる限り入り隅まで入れてください。

●はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、仕上り肌や色相に多少差が生じます。

●水性塗料を塗装する場合はけナイロン(はけ)を使用してください。針毛のはけは固まったリゲマになりやすいので使用しないでください。

●被塗面の洗浄に薬剤を用いた場合、水洗いを入念に行ってください。被塗面に薬剤が残存したまま塗装すると、塗装後の塗膜にひびけ、割れが、白化等の異常をきたす場合があります。水洗後はpH試験紙を用いて被塗面が中性になっていることを必ず確認してください。

●塗装・替え塗装の前に、必ず高圧水洗やブラシを用いて、被塗面の付着物や劣化塗膜を十分に除去してください。下地調整が不十分な場合は塗膜はく離の原因となったり、光沢不足や色むらが発生するなど異常を生じるおそれがあります。

●下地の劣化が著しく旧塗膜の密着不良が見られる場合は、前層塗膜を全て除去してください。

●改修時の既存塗膜のはく離箇所は、予め既存塗膜の塗装仕様(ワタナー処理等)を行ってください。

●改修時に塗膜がはく離する場合は、予め既述のとおり下地調整を行ってください。

●新設コンクリート面に塗装する場合、pH10以下、表面含水率10%以下(ケット科学社製CH-2型で測定した場合)、又は表面含水率5%以下(ケット科学社製H500シリーズコンクリートレンジで測定した場合)まで十分乾燥させてください。

●水洗後は下地表面の含水率が高くなりますので、十分に乾燥(含水率10%以下(ケット科学社製CH-2型で測定した場合)させた後に塗装してください。

●コンクリートの目隠し、ジョイント、コーールドジョイント等は、樹脂入りセメントモルタルで平滑にし、表面のごみ、ほこり、エフロレッセ、セップ、レシートなどの汚れを除去後、塗装を実施してください。

●被塗面にカビや藻が繁殖している場合は、下地処理としてカビ・藻の除去および殺菌処理後、十分水洗し、乾燥してから塗装してください。

●塗装前の部位にワックスやクリーナーなどが残存している場合には、はけや付着不良の原因となりますので、十分に除去してから塗装してください。

●粒状の塗料は元のまま塗装できますが、水量が多いため付着率低下やパターンが作れないくなりますので、水を滴でウエスで軽く拭き取るか、エアブロー、新品の中毛ローラーで水を除去してから塗装してください。

●屋外での施工中、施工後間もなく、気象の急変により降雨が生じた場合はシート養生などを行い、塗装面に直接雨がからなくいよう対策してください。

●塗装作業などでの飛散防止、塗装面以外への付着防止のため必ず養生を行ってください。

●タイル洗浄薬剤が付着した場合は、塗装面の着色や早期劣化を生じることがありますので塗装面を直接雨が行ってください。

●防水・防湿性は繁殖の抑制の効果を示すものです。施工部位の構造や形状、環境条件などにより、これらの効果が十分に発揮されない場合があります。

●構造用目など、塗料が乾燥しないので固まらないように洗浄してください。水で落ちにくい場合、水性デットセーフィ洗浄剤やラッカーシンナーを用いて洗浄してください。(砂骨ローラーはシンナーで洗浄すると影響しますので、ご注意ください。)

●材料は使用前に内容物が均一になるように十分に攪拌し、開缶後は速やかにべ一度に使い切ってください。

●硬化剤は低温環境下で長期貯蔵することおきますが、容器を濡し、液温を20℃以上にするごとに均一透明に戻してからご使用ください。

●強化剤は湿気を吸いやすいため、保管場所、保管状態に十分注意してください。また、湿気、水分と反応しゲル化変質しますので、開缶後は速やかに使い切ってください。

●強化剤は第3石油類危険物第4類となるため、危険物貯蔵保管場所を確保してください。取扱中は出来るだけ皮膚に触れないようとし、必要に応じて有機ガス用防毒マスク、保護メガネ、手袋、長袖作業着、懐きタオルなどを活用してください。皮膚に付着した時は、石鹸で洗い落とすとし、痛みや外傷が生じた時は医師の診断を受けてください。取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、鼻洗浄を十分に行ってください。

●開缶後の塗料はできるだけ早く使い切ってください。また使用した塗料を元の塗料容器に戻さないでください。

●現場での材料は、容器が密に封されていることを確認し、直射日光や凍結を避けた屋内の冷所部で保管してください。

●塗料が付着した布巾、スポンジ、ローラーは引火、発火防止のために浸漬するなどで安全対策を行ってください。

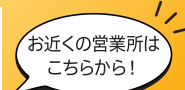
●塗料が汚れた塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁とってください。



MADE IN JAPAN

関西ペイント販売株式会社

📱 関西ペイントホームページ
www.kansai.co.jp



各種カタログご覧になれます。

※本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご諒承ください。

(24年01月15日PKO) カタログNo.774